

答辞

寒暖を繰り返しながら、芳河原台にも春がやってきました。本日私たち定時制、機械・電気の二学科十六名、四年間の高校生活を終え、ここグランシアタに栄えある卒業式を迎えることができました。

私たち定時制の生徒は、昼働き夜学ぶ生活を四年間継続してきました。飲食店・ピザの配達・工場での専門職・建設工事・ガソリンスタンドなど、働いてきた場所は様々です。その収入で自ら授業料を払い、自活した仲間もいます。仕事と夜間定時制の両立は口で言うほど易しくはなく、何度も学校をやめたい衝動にかられました。でもクラスメイトや先輩、そして何より毎日顔を合わせる先生方に支えられ、私たちは本日を迎えています。

たくさんの思い出があります。全国大会を目指して戦った定時制通信制の高校県体。少ない練習時間に集中し、全力で母校の名誉を懸け、試合に臨みました。陸上・卓球は見事全国大会へ、野球部は東九州大会へ進むことができました。

定時制独自のクラスマッチとして二学期にタワーボウルを20レーン貸し切り、ボウリング大会を開催できたことは大きな思い出です。また昨年の冬には、工場見学も実施しました。安心院のワイン工場、中津のグイハツ工場で実際の現場を学習できました。

一番の思い出は、三年次に行った沖繩への修学旅行です。那覇の泊港から船で渡嘉敷島へ渡り、旅行パンフレットでしか見たことのなかった透き通る海と青い空のもと、シユノーケリングができたのです。帰りたくないと思いましたが、ずっとこの時間が続けばいいのにも思いました。事前学習をふまえ、沖繩を通じた平和学習も実りあるものになりました。いつかまた行こうと約束しています。

また三年前から、定時制の文化祭への取り組みを一生懸命行ってきました。芳河原台自治会の方がたにもご案内し、そば打ち・餅つき・じり焼き・やせうま作り大会と一緒にしてきました。今年度は宇佐市の航空隊、掩体壕の調べ学習も文化祭で発表しました。地元新聞が大きく取り上げてくれ、後輩たちへも生徒会の活動を示すことができました。

思い出をたどれば、語り尽くせません。でもクラスメイトがいたから、そして先生方の励ましと応援があったからこそ、私たちはここまでたどりつけています。特に先生方への感謝の気持ち、空のように大きすぎて言葉になりません。何度もぶつかり、何度も文句を言い、何度も教えられ、何度も支えてくれた先生方。本当にありがとうございます。大分工業高等学校定時制で先生方に学んだことを、今度は社会で実践し、社会に貢献することです。恩返しします。

百年に一度の世界不況だったこの一年。しかしそんな一年だったからこそ、自らをさらに叱咤激励し、努力する大切さを知りました。しっかりと基礎を固め、うかれず、おごらず、これからの人生を着実に歩んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、雇用主の皆様、同窓会豊工会の皆様、我々を心から応援してください。皆様に心より感謝申し上げます。そして両親はじめ、家族にも、この場を借りてありがとうございますと伝えたいのです。親孝行の第一は、一人前の社会人になって努力を積み重ねること。がんばります。

この四年間、ともに「しらしんけん」に歩んできた十六名の絆は永遠です。

平成二十二年 三月二日

大分県立大分工業高等学校

定時制卒業生代表 電気科 渡邊 聡